

# 震災後 10年のいま、これから

2011年4月5日、気仙沼市内の脇2丁目・弁天町2丁目の状況。

JR気仙沼線のレール上に立ち、北上する軌道を中央に見ている。

レールの両脇にはまるで池のように海水がたまり、レール上には延々と流出物や砂泥が堆積していた。

この辺りは全方位見渡す限りが同様の光景で、残留している建物はごくわずかである。

本来であれば、遠くの家や山の稜線など見えることのない場所であった。

2022.

2.22 Tue. ▶ 3.11 Fri.

開館時間=午前9時30分~午後4時30分

休館日=日曜日、祝日、3月7日(月)(本学入学試験日のため)

観覧料=無料

会場=水田美術館2階ギャラリー2、1階多目的スペース

企画=土屋正臣(城西大学現代政策学部准教授)

主催=城西大学水田美術館

特別協力=リアス・アーク美術館

※本展覧会は「JSPS 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 JPJS001 19217881 の委託」を受けて実施しております。

**JU** 城西大学水田美術館  
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

## 講演会

### 基調講演+対談(リモート)

リアス・アーク美術館館長の山内氏にリモート出演して頂き、基調講演および対談を行います。

日時: 2022年2月26日(土)  
午後1時30分~午後3時30分

会場: 城西大学水田三喜男記念館 講堂 (定員 50名)



リアス・アーク美術館 館長  
山内 宏泰



城西大学現代政策学部 准教授  
土屋 正臣

#### 第I部 基調講演

「記憶の核に触れる展示について」

講師: 山内 宏泰 (リアス・アーク美術館 館長)

[午後1時30分~午後2時10分]

[10分休憩]

#### 第II部 対談

山内宏泰 × 土屋正臣

(本学現代政策学部准教授)

[午後2時20分~午後3時00分]

[10分休憩]

#### 第III部 質疑応答

質問票にお寄せ頂いた質問の中から、山内氏、土屋准教授よりお答え頂きます。

[午後3時10分~午後3時30分]

お申込み

\*参加無料/要申込

\*参加人数は1組3名様までとなります。

\*参加希望の方は、参加者氏名/参加人数/連絡先(複数の場合は代表者様の連絡先)/参加者の住所(市区町村まで)を、下記いずれかの方法により、事前にお申し込みください。

①メール=museum@josai.ac.jp ②電話=049-271-7327

③FAX=049-271-7342 ④予約フォームからのお申し込み▶



\*講演会会場と展示会場は建物異なるため、当日展示もご覧になる方は、下記時間帯より来館のご予約時間も併せてお知らせ下さい。来館時間=9:30~/10:30~/11:30~/12:30~

## 本学学生による 展示解説

本展の見どころを、土屋ゼミ生が解説します。

日時: 2022年3月5日(土)  
午後2時~(約30分)

会場: 水田美術館2階ギャラリー2

定員: 10名(申込先着順)

申込: 不要 ※事前の来館予約は必要です

\*来館予約は、来館時間午後1時30分~をお願いいたします。

※講演会および展示解説は録画をし、後日美術館 Youtube にて配信いたします。

※アップロードのお知らせは当館ホームページ、Twitter でお知らせいたします。

※配信は中止となる場合もあります。予めご了承ください。

※当館へのご来館は事前予約制となります。詳しくはHPをご覧ください。お電話にてお問合せください。(049-271-7327)

※今後の新型コロナウイルスの状況により、展覧会及びイベントの変更等の対応を取る場合もございます。予めご了承ください。



QRコードからの予約が便利です。

※ご来館前日の午後3時までにご予約ください。

### 交通のご案内/Access



#### 【電車の場合】

東武東上線坂戸駅乗り換えで東武越生線川角駅下車、踏切を渡り徒歩10分  
By train: From Sakado station of the Tōbu-Tōjō Line, take the Tōbu-Ogose Line and get off at Kawakado station. It is a ten minute walk to the university.

#### 【お車の場合】

1. 関越自動車道「鶴ヶ島 I.C.」を出て、鶴ヶ島方面に進み国道407号線を直進
2. 「脚折町四丁目」交差点で右折し、右に「狩野動物病院」の看板がある交差点で右折
3. 「一本松」交差点を毛呂山方面に直進
4. 「万年橋」を渡り、「明海大学病院」の看板がある交差点を左折し直進、踏切を渡り登り坂を進むと突き当りに城西大学正門入口

※鶴ヶ島 I.C. より約 20 分



数字は川角駅までの最短所要時間です。  
The number indicates the shortest time required to reach Kawakado station.

**JU** 城西大学水田美術館 〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1  
1-1 Keyaki-dai, Sakado-shi, Saitama 350-0295 JAPAN  
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY Phone: 049-271-7327 https://www.josai.ac.jp/~museum/

## ごあいさつ

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震によって発生した巨大津波は東日本太平洋沿岸部全域に大被害をもたらしました。私たちが暮らす宮城県気仙沼市では、まちの基幹産業である漁業、水産加工工業地帯、それらを軸に構築されている商店街、飲食店街、そして地域住民の大半が暮らす住宅地など、まちの中核機能が集中するわずかな平地のほぼ全域が津波に没し、かろうじて残された建造物は大火によって焼失しました。

東日本大震災に直面した私たちリアス・アーク美術館学芸員は、対峙する世界を感じ、観察し、想像力を駆使してそれを思考、表現し続けました。私たちは数か月間の極限状態をそのような活動によって乗り切り、発災から約2年後の2013年4月3日より「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示を新設、公開しました。

一般に博物館における展示は、科学的根拠に基づいた客観的事実を最重視します。学術専門機関としてそれは当然のことです。一方、美術館の本質は「客観的事実（情報）の提供、取得」ではなく、「人類史上の多種多様な主観的情報が持つ普遍性の提供、その普遍性の確認と共有」を図ることです。そのような理念に基づき、当館では被災した個人があの日以来その身で感じてきた「被災の主観的現実」を伝えています。

それまでの人生で得たほとんどの経験が通用しない大災害、理解を越えたカストロフィを生きぬくために何をすればよいか…、現在の日本において、ある日突然、否応なく発生する巨大災害を想定した思考を身につけておくことは、誰にとっても非常に重要なことです。

本展をご覧いただくことで、一人でも多くの人々の心に、日常の崩壊に備える意識が芽生えることを祈ります。

リアス・アーク美術館 館長  
山内 宏泰

# 震災後10年のいま、これから

## 本展覧会の開催にあたって

東日本大震災という未曾有の災害は、その情報の継承の方法についても重要な問題を投げかけました。情報とは、ここでは具体的に「記録」と「記憶」という言葉で表現します。「記録」は報道写真・映像、データのような客観的な情報群です。震災当日やその後を表現する情報として、復興に不可欠なものであることに誰も異論はないでしょう。

しかし、「記録」は時間軸に沿って整然と配列され、建物の倒壊数や死者数は数字として私たちの目の前に示されるに過ぎません。そこには、震災前の豊かな生活の思い出や震災直後に一人一人が突き付けられた現実、今日までの時間の積み重ねはありません。

対して、「記憶」は主観的であり、時間的な経過とともに変化する可塑性を有しています。だからこそ「記憶」には、個人々の過去の思い出や将来に対する想いが込められています。「記憶」に込められた想いは、都市のインフラ復旧にはあまり寄与しないかもしれませんが、しかし、人々が自らの生活を再建し、地域社会へのアイデンティティを取り戻し、「これから」に目を向ける手がかりになるはずです。

リアス・アーク美術館の山内氏からお聞きした中で最も印象的であったことは、「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示の来館者同士が、自らの個人的な体験を語り出すということでした。リアス・アーク美術館のスタッフにより撮影・収集され、展示されたものは、スタッフの主観で構成されています。その主観とはスタッフ自身の「記憶」とも言い換えることができるでしょう。このスタッフの「記憶」が表現された展示が、来館者の「記憶」を呼び覚まし、「これから」に思いをはせる機会になるのです。

本展覧会を通じて、来館者の皆様とともに震災後10年という時間が積み重ねられた「いま」を想起するとともに、「これから」に思いをはせる場が生まれることを願ってやみません。

城西大学 現代政策学部 准教授  
土屋 正臣



2011年3月13日、気仙沼市魚市場前の状況。歩行が困難な被災物の堆積があり、かつ此処そこから煙が上がっている。時折吹く風が大破した家屋のトタン板を揺らす。バララン…カラランというような、それまで聞いたことの無い音が四方八方から聞こえていた。それ以外の音と言えば、上空を飛び交うヘリコプターの風切音のみ。頭に浮かぶ言葉もない。



2011年4月5日、気仙沼市仲町の状況。JR南気仙沼駅のホーム。気仙沼市民にとってJR気仙沼線は仙台方面への移動手段として欠くことのできない重要な公共交通手段だった。特に高齢者や学生にとってはまさに日常の足だった。土日には通称「お買いもの列車」と呼ばれる8時台の仙台直通列車に乗り、17時台仙台発の便で帰ってくる。おしゃれをした若者が、ロゴの入った衣料品店の袋を下げて列車を降りてくる。

## タイル片

2012.3.30～4.20  
気仙沼市・南三陸町各所



津波つつうの、みな持ってってしまうべえ、んだがら何にも残んねえのっさ・・・基礎しかねえし、どぞが誰の家だが、さっぱり分かんねえんでば。それでも、玄関だの、風呂場だののタイルあるでしょ。あいづで分かんねえ。俺もさあ、そんで分かったのよ。手のひらくらいの欠片でも、家だがらねえ。残ったのそれだけでば。

2011年3月11日から約2年間に亘る当館独自調査記録資料（被災現場写真203点・被災物155点）その他歴史資料等137点、資料総数約500点を常設展示



東日本大震災の記録と津波の災害史（1F常設展示）

リアス・アーク美術館  
RIAS ARK MUSEUM OF ART

〒988-0171 宮城県気仙沼市赤岩牧沢 138-5  
電話番号：0226-24-1611  
開館時間：午前9:30～17:00（最終入館16:30）  
休館日：月・火・祝日の翌日（土日を除く）